

背水の陣一砲丸投げを通して学んだこと

みなさん、こんにちは。私は中国出身のシュウ シュガンと申します。今から私の忘れられない瞬間について話したいと思います。

私の忘れられない瞬間は中学の運動会で砲丸を投げ出した瞬間です。

私は小さいころから運動が苦手です。そのため運動の魅力を全然理解できませんでした。

中学一年生の夏、運動会の季節がやってきました。みんなは積極的に種目に応募していました。しかし、砲丸投げの種目にはひとりしか応募しませんでした。先生はクラスのスコアを高くするために、班長さんに、誰かを選んで砲丸投げに参加させようと言いました。

運悪く、班長さんは私を選びました。班長さんは私に言いました。

”シュウさんは背が高いし、力も強い。砲丸投げの選手として相応しいと思う。”

”いやだ。私は砲丸投げをしたこともないし、砲丸投げの方法も分からない。”

”大丈夫だよ。ただクラスのために参加するだけだ。”

”でも”

”でもと言わないで、では、シュウさんの名前を登録するよ。”

班長さんそう言って、去ってしまいました。

そのため、私はしぶしぶ砲丸投げの選手になりました。家に帰ったあと、父にそのことをはなしました。すると怪我をしないように、経験がある父がコーチとなって、私を建設現場に連れて、厳しい訓練を始めることになりました。

練習を始めた時は、私は砲丸を肩まであげることもできませんでした。練習を通して、だんだん上手になりましたが、2.5メートルぐらいしか飛ばませんでした。体育の先生によると、3メートルくらいなら上位を取れる可能性があるそうです。

私は”やっぱり上位をとるのはだめだ。でも怪我をしないでクラスのために参加するのが私

の役目だ。”

と考えました。

そして運動会の日になりました。本番はとても緊張しました。私の出番になりました。すると、突然、頑張^{まわ}って上位を取ってみようとの考えが沸いてきました。砲丸を肩まで挙げて、回る瞬間、全身^{ぜんしん}の筋肉が力いっぱいになりました、そして高速で半周を回って、砲丸を手から^{なげ}投げ出す瞬間、力が火山のように爆発しました。この瞬間は一生忘れられないです。あの砲丸は練習した時よりも遠いところに落ちました。席に戻った後、放送で結果が発表されるまで、私は優勝したことを知りませんでした。3.15メートルでした。決して遠くはないですが、練習前より大きな進歩^とを遂げました。私と準優勝の間には5センチメートルの差しかありませんでした。誰が優勝だとしてもおかしくない差だったと思います。

信念をもって、一生懸命頑張れば、自分の力とは思えないほど力が出る可能性があります。

この瞬間は今日まで私を励ましてくれました。

ご清聴ありがとうございました。